

地域を守る！みんなのヒーロー！

# まちの消防団

皆さんは、消防署と消防団の違いを知っていますか。今回の市民活動特集は市民の安全を守るために地域で活躍する約600人の消防団員がどのような活動をしているのか紹介します。



水防工法訓練

消防操法大会

# 災害発生！！消防団出動！！

消防団は、江戸時代の「町火消し」が前身と言われる伝統ある組織です。普段は本職の仕事や家事などをしながら、街の防災活動をできるときにできる人が参加しています。地形や地域の実情に詳しい地域住民だからこそできる危険箇所の警戒・巡回や住民の安全確認などの活動が、効果的な災害対応につながります。今回は、そんな消防団の活動内容をインタビューを交えて紹介します。

## 消火活動



全国消防イメージキャラクター・消太

火災などが発生したときは、消防署と連携して消防士のサポートや避難誘導、周辺の安全確保や警戒活動などを行います。いつでも消火活動のサポートができるように日々訓練を積み、大会などに出場して技術を競います。



消防操法の訓練の様子。チームワークを強化し、速やかに準備します

## 救助活動



救助が必要なときには、応急救護活動や救急隊のサポートに従事します。AEDを使用した心肺蘇生法や、大出血時の止血法、異物除去法など訓練や指導は多岐にわたり、大規模災害を想定して倒壊建物を再現させ、ジャッキ、ボール、チェーンソーなどを用いて人命救助訓練なども行います。



AEDを使用した応急救護訓練

## 現役団員にインタビュー



現役女子大学生消防団員  
今の経験を生かして消防士を目指す

松戸市消防団第三十六分団 団員  
村田涼音さん（武蔵野大学グローバル学部3年生）

### Q.消防団に入団したきっかけは

A. 小学校3年生のときに、東日本大震災を経験し、自分に何かできることはないかと考え、友人が入っていた少年消防クラブに参加したのがきっかけです。

### Q.三十六分団はどんな雰囲気？特徴は？

A. 女性団員のみの方で、にぎやかで和気あいあいとしています。40代前後の主婦や仕事をしている人が多く、普段は月1回程度の救命講習をメインに活動しています。傷病者が女性だった場合に配慮し、服を全て脱がさないAEDの使い方を指導しています。

### Q.印象に残っている活動は？

A. 松戸市には女性消防団以外に「女性防火クラブ」というものがあります。そこでは避難訓練で、非常食をアレンジした試食を提供したり、そのレシピを配ったりしていました。これは女性ならではの活動だと思い、女性消防団にも取り入れたいと思いました。

### Q.入団してうれしかったこと

A. 実際に私の目の前で人が倒れてしまったことがありますが、焦らずに声を掛けることができました。幸いにも意識と呼吸があったため、AEDを使うような大事には至らなかったですが、消防団で学んだ心肺蘇生法の手順に従ったことで、勇気を出して声を掛けたり、周りの人を呼んだりして目の前の人を助ける行動ができたことがうれしかったです。

### Q.今後の目標は

A. 今の経験を生かして、将来は消防士として地域貢献するために、来年は採用試験を受験しようと思っています。消防団としての目標は、地域の人に防災に興味関心を持ってもらうことです。避難訓練などで、消防車や救急車に乗ったり、煙や放水などを実際に体験できるような子どもから高齢者までが防災に興味を持つイベントがあると、地域のコミュニケーションの輪も広がると思います。

## 消防署と消防団って何が違うの？

災害などから市民を守ることを専門にしているのが「消防署」。その消防署で働く人を「消防士」と呼びます。一方、普段は会社員や自営業など別の仕事をしている地域の人、災害が起こったときに集まって活動するのが「消防団」。その消防団に参加している人が「消防団員」です。消防士の活動を無理のない範囲でサポートするのが消防団です。

## 消防団員の活動を教えて

消防団員は火事の消火活動や、大きな地震や水害が起きたときに困っている人を助ける活動をしています。災害が無いときは、消防や防災の勉強をしたり、学校や集会所でけがの処置や防災についてなどを教えたりする活動をしています。



消防団員が消防車を運転して現場に向かいます！

## 水防活動

大雨などの風水害時は、漏水の噴出口に土のうを積み、越水を防止したり、増水した河川の警戒・住民の避難誘導を行ったりします。写真は、堤防近くの平地などに漏水した水が噴き出した場合、漏水の噴出口を中心に土のうを積み上げて水を貯え、その水圧によって噴出を抑える「釜段工」の訓練の様子です。



土のうを円形に積み「釜段工」の訓練



1袋20kg程にもなる土のうを、連携プレーで素早く積みま

## 防火指導・救命講習

日頃から災害を未然に防止するため、火災予防の呼び掛けや警戒活動を行います。松戸まつりや花火大会などの各種お祭りやイベントの会場・周辺の防災警備や交通整理も行います。また、住民一人ひとりの防災意識を高めるため、防火指導で消火器の取り扱い、応急救護訓練やAEDを使用した救命講習会で指導を定期的に行っています。



誘導灯で警備！  
事故を未然に防ぎます

出かける前やお休み前には火の元を確認しましょう



消防車で火災予防の呼び掛け

### 普段は会社員として勤務 バランスを大切に無理なく活動

松戸市消防団中央方面隊第二分団 分団長  
田中康一さん

#### Q.消防団員になったきっかけは

A. 普段から食事に行く友人に誘われたことです。体力や運動には自信がなかったのですが、その友人も働きながら無理なく活動していると聞き、私も参加できると思いました。現場まで自ら消防車を運転し、地域の役に立てることを誇らしく感じます。

#### Q.大変だったことは

A. 路上警備や誘導の際に、協力いただけなかったり、思いがけない言葉を掛けられたりすることもあります。皆さんの安全のため、ボランティア精神で活動していますが、このようなときには悲しく思うこともあります。

#### Q.交流関係に変化はありましたか

A. 松戸は地元ではないので、地域の知り合いがほとんどいませんでしたが、団員や消防関連の皆さんはもちろん、活動を通して地域の人と話す機会が増え、知り合いが多くなりました。

#### Q.消防団のやりがいは

A. 地域の役に立てて、皆さんに喜んでいただけることです。加えて、安全に関する知識が身に付くことです。

#### Q.皆さんに伝えたいこと

A. 消防団は、それぞれ本職の仕事に就きながら、無理なく活動できるときに地域貢献活動として参加できます。日本の消防の仕組みとして不可欠な存在であるにもかかわらず、私も最初は消防団とは何なのか全く知りませんでした。市の職員である消防士との区別もつかず、会社員である私にとって遠い存在でしたが、今では「自分の町は自分たちでも守ろう」精神で頑張っています。少しでも興味がある人は、お気軽に近くの消防団にお問い合わせください。

消防団に関するお問い合わせ 消防総務課 ☎363-1116 ※消防団員募集の詳細は、4ページに掲載しています。

## あなたも消防団員として活躍しませんか？

☎消防総務課 ☎363-1116

**応募資格** 心身共に健康な市内在住・在勤・在学の18歳以上55歳未満  
**団員の身分** 特別職の地方公務員として保障  
**報酬** 年36,500円から ※その他出勤内容に応じて別途支給。  
**待遇** 退職報償金200,000円から支給（5年以上勤務して退団した場合）、公務災害補償、被服の支給、表彰制度  
 ※詳細は市ホームページ「消防団員募集」をご覧ください。



消防団員募集

みんな自分のペースで参加しているよ！



## 消防職員と消防団員が一緒に活動する消防音楽隊に入りませんか？

音楽（吹奏楽）経験者を募集中です。現在、消防職員15人、消防団員25人が活動しています。演奏を通じて、火災予防運動などの消防団活動をしてみませんか。



### 「消防団員応援のお店」でお得なサービス

「消防団員証」を提示すると、地域防災の担い手である消防団員を地域ぐるみで応援するという趣旨に賛同する飲食店などの「消防団員応援のお店」で割引などのサービスを受けられます。対象店の一覧などの詳細は市ホームページ「松戸市消防団員応援のお店」をご覧ください。



松戸市消防団員応援のお店

### 就職活動で積極的に評価される証明書を発行 学生消防団活動認証制度

一定の消防団活動をした団員に、市がその功績を認めて証明書を発行します。  
**認証対象** 市消防団に所属する大学生・大学院生・短期大学生・専修学校生  
 ※詳細は市ホームページ「松戸市学生消防団活動認証制度」をご覧ください。



松戸市学生消防団活動認証制度

## 松戸市消防団初！松戸市消防団五香方面隊第二十五分団 千葉県消防操法大会で最優秀賞

千葉県消防学校で開催された「千葉県消防操法大会小型ポンプ操法の部」で、同分団が最優秀賞を受賞しました。10月29日(土)に行われる全国大会に、松戸市の消防団として初めて千葉県代表として出場します。ぜひ応援しましょう。



優勝旗を囲む同分団の隊員



松戸市消防団五香方面隊第二十五分団 指揮者

### まつもとかずや 松本和哉さんにインタビュー

#### Q. 消防団に入団したきっかけは

A. 父親が消防団に入団していたので、20歳のときに自分も自然と入団しました。体を動かすのが好きだったことと、父が消防団の競技大会で賞を取っていたのを見て、「いつか自分も」と思っていました。

#### Q. 消防団の活動頻度は

A. 毎週2・3回、19時～21時に八ヶ崎訓練センターで活動しています。団員は12人で20～50代の若いチームです。団員は普段は働いていて、私も普段は五香で瓦屋をしています。

#### Q. 分団内はどんな雰囲気ですか

A. 年代がまとまっていて風通しが良いです。訓練などのときは集中し、それ以外ではリラックスできる雰囲気の良い分団です。

#### Q. やりがいを感じる時は

A. 大会に出た際に、自分たちのチームが他のチームより優れた技術を身に付けられていると確信できたときにやりがいを感じます。日々の訓練の結果だと思いますし、この結果を自信に実際の災害現場で消防士の皆さんをサポートしたいです。

#### Q. 最優秀賞は以前から目指していましたか

A. 個人的には、やるからには勝ちたいと思っていました。最初は団員全員が同じ目標ではありませんでしたが、練習を積んでいくうちに優勝を目指す雰囲気になっていきました。

#### Q. 今後の課題は

A. 消防団が広く浸透していないことです。そのため、訓練センターでの市民交流イベントなどで多くの人に消防団について知ってもらう必要があると考えています。また、団員の中に若い人が少ないと感じます。どのように若い人に入団してもらうかを考えたり、年功序列ではなく若年層に役職を与えたり、若い人の意見を取り入れたりするなど、みんなが活動しやすい風通しの良い組織にできればと思います。

広告